

# 興津と阿部

西田耕三

興津とは、鷗外『興津弥五右衛門の遺書』の興津であり、阿部とは、鷗外『阿部一族』の阿部弥一右衛門である。鷗外の歴史小説に関する研究は精細をきわめているから、あるいはどこかで言及されているかもしれないが、いま精査する暇がないので、紹介することにする。

『雑録 古文書集録ナリ』という表題をもつ1冊は、11件の古文書を、おそらくは散逸を恐れて書き写したものだが、その中に「沖津弥五右衛門書翰」（この件名は本書巻頭の目録にあるもの）がある。「沖津」は「興津」と考えてよい。興津弥五右衛門が、主君細川忠興（三斎）の三回忌にあたる正保4年(1647)12月2日に切腹する直前の、11月21日付けの手紙である。宛先の「長岡佐渡守」は、幽斎以来細川家の重臣であった松井康之の子興長で、この時八代を領していた。

十月晦日の尊書相届、忝致拝見候。先以道中船中御無事に廿三日に被成御着候由、扱々目出奉存候。私儀も、当月二日に江戸を罷立、同十四日に大徳寺え息災にて上着仕、加様の大慶無御座候。今度罷上候刻も、太守様被召出、結構成御意共にて、御錠にも「其方は冥加に叶たるものにて候。人の上に望を叶候儀はなく候へ共、望の俣に仕、三斎威光を上げ、家の威を増候段、近比御満足に思召候」との御意にて、私盃を被召上御戴に成、私一世の面目不過之候。江戸にても方々御振舞被成、色々結構成儀共にて御座候。寺え参候ても、

京中の衆被参、一円無隙迷惑仕候。其上、於大徳寺御法事御執行被成、私大慶此上無御座候。天道に叶、貴公様さゝ江戸え御越被成、数年御礼直に申上、世界に残多事少も無御座候。せかれ共の儀は、太守様、帯刀様御親被為成可被下候由御意にて候。此段は貴公様能御存知にて候。作太夫儀は、江戸にて如申上、無調法もの、儀に御座候間、万事頼上候。当地にての儀少も御気遣被成間鋪候。万端御心入候段、有難奉存候。恐惶謹言。

十一月廿一日 孤峯 不白（花押）

長岡佐渡守様 参尊報

尚々三年の中御一門中熊本八代の侍共、石仏へ情香不被仕、太守様御法度候様に仕成候段無是非候。此儀一句申度候得共、貴公様御ためいかに存、申のこし候。

江戸を罷出刻、扇に書上候。道中持申候得共、無御心元思召候はんと存、書付致遣上候。

大抵還他肌骨好不塗紅粉自風流  
誰ための名なれば身より惜らんはかなき  
ものは武士の道

江戸を出日  
多年籠中鳥今日穿雲飛

道中の心  
たち出てたひの衣の日も暮は帰そゆかむ  
本の柳に

古人の申置候を私の心に引入候。以上。

十一月廿一日 孤峯不白

長岡佐渡（破れ）津弥五右衛門

メ大徳（破れ）より

10月23日に八代に帰った長岡興長が10月晦日付けで出した書簡に対する返簡である。興津は10月2日に江戸を出発して、10月14日に京都の大徳寺に着き、滞在していた（12月2日に大徳寺で切腹するためである）。

興津の心情は率直に記されている。江戸では「太守様」（細川光尚）からもてなしを受け、江戸

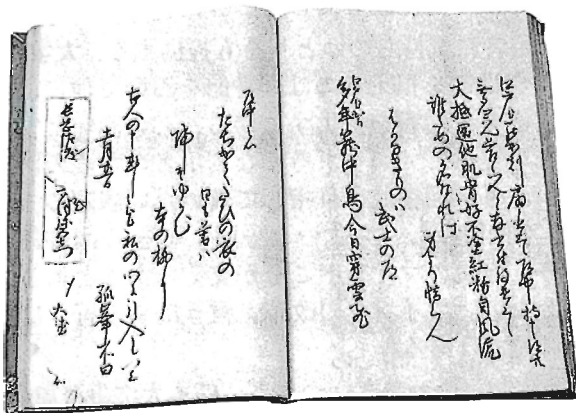


図1 『雑録 古文書集録ナリ』

の人々とも十分に別れを尽くし、「世界に残多事少も無御座候」と書いている。つまり、この手紙は興長にあてた遺書である。「作太夫」は興津の弟。尚々書の冒頭は、おそらく主君忠興に対する家中の弔い方に関する不満を述べているのであろう。しかし、興長の立場を考慮して、「申のこし候」と言う。最後に付された詩歌は、武人興津弥五右衛門の生涯の精一杯の述懐になっている。「孤峯不白」は興津の号。

阿部の件は『考証雑録』(写本、1冊)に載る。「妙解院様殉死ノ子孫御焼香ノ次第」という文書で、細川忠利に殉じた人々の(1)「御廟前石碑之次第」と(2)「奉書控之次第」の異同を調べ、阿部の場合の異同が特別に大きいものであると言う。すなわち、(2)では、寺本八左衛門、大塚喜兵衛について3番目に記されている阿部弥一右衛門が、(1)では7番目になっているのである。この点に関し、文書は次のように言う。

此人奉書控には此所(3番目)に書載有之。石碑の次第にてはこの以下五人目にて、宗像加兵衛次に有之候。此人に限り、外々に見合候へは、別段に次第狂ひ奉書、石碑相違仕候。知行高多御坐候故、殊更に繰上げ候哉、不審。

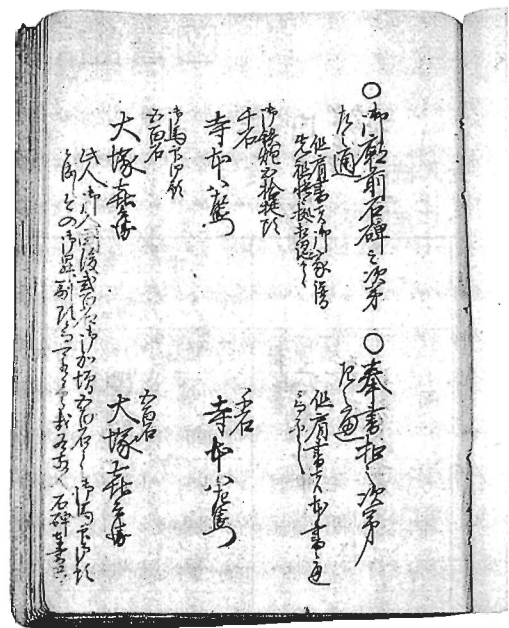


図2 『考証雑録』

『考証雑録』は、表紙右上に「諸向問合返答等も此内ニアリ」、左下に「御日記方」と記す。幕末に作成されたものである。(1)と(2)のこの異同は阿部一族の反抗と何らかの関係があるのだろうと私は推定する。

(にしだ こうぞう 文学部教授)

## ASPECT熊大

(本学教官研究成果公開コーナー)

中央館第1閲覧室内に、“ASPECT熊大:本学教官研究成果公開コーナー”を設けました。

このコーナーには、教官著作物をはじめ、シラバス、科学研究費報告書など、熊本大学に関する

資料を集めています。是非、ご利用ください。

また、このコーナーの充実を図るためにも本学関係者の方々には、研究成果の寄贈をよろしくお願い致します。

